



## 世界遺産の永続的な継承にむけて

荻町区長 佐藤 一弘

(マスタープラン検討住民会議座長)

「マスタープランの会議ってなんのためにやっとするの?」という質問をたまに聞かれることがあります。それは、次のような事情から取り組み始めたと考えております。

- ・平成7年に世界文化遺産として登録されて以降、観光客の増加により観光に携わる業種への様々な苦情や不満が寄せられている。
- ・村外の多くの有識者が今の荻町の現状に対し危機感を持ち、忠告及び警告を発している。(景観保全・交通問題等)
- ・世界遺産の危機遺産リスト入りの回避はもちろん、来たるべくモニタリングに対して我々の取り組み姿勢を示す必要がある。 . . . . 等々

大まかには以上のようなことではなかろうかと思えます。ここに住んでいる者には見えにくくなっていることが、外部の人にはよく見えるのだと思えます。いままで集落内景観の保全や次世代への継承等は、荻町集落の自然環境を守る会を中心に取り組んできたわけですが、その活動自体は決して間違っただけではおらず、大いに誇れるものであると思えます。しかしながら、守る会だけでは対応しきれない部分においてマイナス面がでてきたと思えます。ただ、いくら外部の人に指摘されようとも、ここに住んでいるのは私たちです。私たちしか理解しあえないことがあることも事実です。今一度、イエロ - カ - ドを出されている状況を正面から受け止め、よい機会をもらったと捉え、荻町住民全員に関心をもっていただき、荻町住民の強い思いが反映されるマスタープランを創ろうではありませんか。

3月より開催した会議は9回を数え、現状の荻町区内における各分野毎の問題点等のまとめができました。6月中旬より下旬にかけて各組単位での説明会を開催いたしますので、ぜひとも多数のご参加をお願いいたします。



【第2回検討住民会議の一コマ】

**旧寺口家の棟包み・整備作業！！** . . . . 去る5月11日、旧寺口家の屋根の棟包み及び障子張り等の整備作業を行いました。例年旧寺口家の管理は守る会が行っており、雪囲い取り付けや草刈り等を行っていましたが、今回は、田中栄作合掌環境部長の声かけで、大がかりな作業を行いました。17名もの委員や有志の方々にご参加くださり、みんなの力で旧寺口家が見違えるように美しくよみがえりました。屋根葺き技術を持つ者は屋根に、障子張りを経験者に学びながら行う者、ススやホコリでよごれた部屋を丹念に拭き掃除する者。それぞれが自分にできる仕事を見つけ最大限

に貢献している姿は、まさに屋根葺きの結に通ずる姿だと感じました。また、今回の取り組みに多くの若い委員が積極的に参加して下さったことも、うれしかったことの一つです。荻町を担う若者の頼もしい姿は、新緑に息吹く山々のように、私たちに明るい未来と活力を与えてくれます。白川郷は、その伝統文化を支える先輩方とそれを学び繋げていく若者がいるからこそ現在があるのだと、強く感じました。守る会の存在も、そうしなければいけないと決意を新たにしました。ご協力くださいましたみなさん、ありがとうございました。

[ 文責：和田 ]



[ 作業を終えて、はいポーズ!! ]

## 旧休耕地の復元・保全活動！！・・・守る会の重要な活動の一つに、休耕地の復元・

保全活動があります。今年度も、昨年度復元した水田の耕作を継続し田植えを終えました。また、かん町棚田の草刈り整備等も実施する予定です。荻町合掌集落は、水田をはじめとする農山村の景観と合掌家屋の存在が、日本を代表する世界に誇る集落であると認められ世界遺産となりました。その意味からも、農地を保全する活動はとても重要なことなのです。「深田で機械が入らんけど、手植えで今もがんばるとるんや」「ご先祖様から預かった田んぼやで、若い者に手渡すまでがんばるんや」という言葉を聞くと本当に頭が下がるばかりです。世界遺産を次世代へ継承していくためにも、お互いがんばっていきましょう！！

[ 文責：和田 ]



[ 復元した水田のしろかき作業 ]

### 守る会の活動指針（国際フォーラム白川郷宣言より）

- ( 1 ) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- ( 2 ) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- ( 3 ) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

## = 5月の活動報告 =

- 5月 1日 役員会
- 5月 4日 交通対策（一方通行）～5日まで
- 5月 7日 休耕地 田おこし
- 5月 8日 エコジャーナリスト養成講座準備 CBC 来郷
- 5月 9日 守る会定例会
- 5月 11日 旧寺口家棟包み・清掃作業（17名）
- 5月 12日 休耕地 しろかき
- 5月 20日 第9回マスタープラン住民検討会議
- 5月 23日 財団評議員会・助成検討会（副会長・事務局長）
- 5月 26日 全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会

= 区民の皆様へ =

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに、各組委員に内容を説明の上、委員又は財団に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆さんの理解とご協力をお願いいたします。（申請書は各組委員が持っています。）

30日 NIS田植え体験支援

### 6月の協議事項（現状変更申請に関わって）

\*\*\*\*・・・私設水路の改修      \*\*\*\*・・・畑の柵      \*\*\*\*・・・農業機械倉庫屋根葺替

**屋根のペンキ塗り替えは、現状変更申請の必要はありません。なお、補助がでますので「トタン屋根用塗料代補助申請書」を守る会事務局へご提出ください。**

# 平成20年度第30回全国伝統的建造物群保存地区協議会 総会・研修会並びに住民プログラム参加報告書

見出しの研修会に参加いたしましたので、以下に報告いたします。

日時：平成20年 5月 26日(月) ~ 28日(水) 3日間  
場所：福岡県うきは市 吉井伝建地区  
参加者：住民代表として 合掌財団飯波事務局長 守る会板並会長 和田事務局  
役場より 谷口村長 教育委員会近藤氏

日	時間	内容
26日	13:30 ~ 15:50 16:30 ~ 17:40 17:50 ~ 18:10 18:20 ~ 20:30	受付・事例発表(2地区) 記念講演 演題：「北九州・山口地域の町並み - その歴史・空間・景観と現在」 講師：九州大学大学院 宮本雅明教授 歓迎レセプション「吉井賛歌」 郷土芸能鑑賞 「若宮毛槍 山北毛槍」 情報交換会
27日	9:00 ~ 12:50 13:00 ~ 14:00 14:10 ~ 17:40 18:00 ~ 18:30 18:30 ~ 20:30	現地フィールドワーク(吉井伝建地区) 昼食 文化庁講演 文化財調査官林氏より 意見交換会 分科会・全体会 郷土芸能鑑賞「田籠田楽 太鼓」 情報交換会
28日	8:30 ~ 12:30 12:30 ~	現地フィールドワーク(平川家・つづら棚田・河北家等) 解散 (帰路に朝倉伝建地区、八女福島伝建地区を見学)

## 事例発表(倉吉市・八女市)

来年度同協議会の開催地となる鳥取県倉吉伝建地区、本年度開催地に隣接する八女福島伝建地区の2地区が事例発表を行いました。どちらも町家や土蔵群の町並みが保存されています。報告のなかで、行政と住民が共通の認識で保存と活用に取り組む必要性をあらためて痛感しました。

## 記念講演(宮本雅明教授)

全国83伝建地区のうち九州や山口地区には24の伝建地区が存在しています。それらの保存対策調査や保存計画策定に関わってきた研究成果から、都市空間が形成された時代的背景や現存する物件や町並みの状態を活かした伝建地区の保存についてお話がありました。城下町の廃城後に伝統産業を育てて自立的発展を遂げた八女福島(八女市)や街道沿いに農産物の集散地として発展した筑後吉井(うきは市)といった産業との関わりから発展した町並みや、街道や港、川といった条件から特化した町並みなどの話が興味深い内容でした。また、火事等による災害からの復興で出来てきた町並みも多く、蔵造りの家屋は防火を目的として造られました。その点からも、土蔵の町並みが多く存在する伝建地区において、



【全体会場での講演】



農山村集落として存在する合掌集落の価値の高さを強く感じました。それだけに、今後も先人が守り続けてきた家屋を防災からしっかり守り次世代へと繋いでいかねばならないと強く感じました。

### 現地フィールドワーク

吉井伝建地区を中心に視察。吉井地区は過去に3度の大火に見舞われ、それを契機に土蔵造りの家屋が増加しました。その漆喰の塗り込み程度による耐火構造の性能に応じた建物の分類がなされていることや妻入りと平入りの町屋型建築が混在している点、水路を活かした屋敷型建築の様子等がわかりました。また、町を流れる川辺の石積みや石碑、石畳といった工作物も大切に保存されており、萩町にも同様の物件が存在するので、大切に保存し活かしていきたいと感じました。また、ボランティアガイドによる説明はとても熱心で、郷土を誇りに思い郷土を愛する気持ちが伝わってきました。白川でも、白川のよさを伝えるガイドをもっと育成し保存と地域振興の一助とする必要性を感じました。



【吉井伝建地区を散策】

### 分科会意見交流会

参加者が3つの班に分散し交流しました。和田は1班「保存会の活動をどうすべきか」に参加。世界遺産にいたるまでの概要と現在守る会が力を入れている活動について説明しました。萩市の方が守る会が行っている現状変更申請のシステムを紹介くださり保存を行政まかせにするのではなく、住民と行政が一体となって保存していることを高く評価してくださいました。守る会は伝建地区のパイオニアとして努力を重ね今日に至っていることが確認でき、これからの活動への揺るぎない自信と意欲を感じました。



【住民による意見交流会】

板並会長は3班「次世代住民に認識を高めてもらうためにはどうすればよいか」に参加。守る会の活動や白川村の出生率の高さ、保存活動にむけての若者の育成について説明しました。他地区では高齢化が進み空家の増加が深刻化しているなか、次世代を担う若者が存在する白川のありがたさと、だからこそしっかり継承しなければいけない責任を感じました。

### 郷土芸能・情報交流会

その地区ならではの伝統文化に触れることができました。交流会では、様々な方々とお話ができ、これを機会に他の伝建地区を是非訪れてみたいと感じました。また、白川郷を訪れた方がほとんどで、白川郷の知名度の高さをあらためて実感しました。



【国重文平川家の茅葺き屋根】

### その他

3日目の市内フィールドワークで国重文平川家住宅を見学しました。18世紀後期の農家住宅で、寄棟造りの屋根が連なっています。屋根の骨組みには竹材が豊富に使われている点や、合掌家屋と同じコマジリ構造が見られる点等興味深く見学できました。その他つづら地区の棚田見学では、オーナー制度で誘客を図り棚田の保存活動を行っている点も参考になりました。

終了後、帰路に朝倉伝建地区、八女福島伝建地区に立ち寄り見学。白川郷の集客の高さを体感するとともに、知名度に甘えることなく伝建地区として世界遺産地区としての景観を維持していくことの大切さを感じました。

最後になりましたが、貴重な研修の機会を与えてくださいました守る会の皆様、合掌財団・役場関係諸氏の皆様に感謝申し上げます。研修報告といたします。



【つづら地区の広大な棚田】

[文責：和田]